

水色プライドⅡ



考えて判断する！正義を貫け！「当たり前」を当たり前！

高砂中学校
第2学年通信
2017年
7月18日(火)
No.27
☎ 258-0038

合唱コンクールを終えて・・・(生徒作文より)

【合唱コンクールを終えて】1組 S.K.さん

プライドカップを終えてみてまず思ったのが(4組との差が大きすぎて賞は取れないかもしれない…)といったものだった。でも、そこから練習に対する心持が変わり、もっと真剣に取り組もうと思った。

1回1回の練習時間を大切に、先生や指揮者のアドバイスをメモした。それは私だけではなく、みんなそうだった。練習の時騒いでうるさくなることもあったが、ピアノの音色を聞くと気持ちが切り替わって真剣に歌い出した。

私には目標が2つあり、1つは実行委員の仕事を全力で行うというものだった。本番の時、最後まで残って後片付けをした。アナウンスの時も、落とし物のお知らせなど、いきなり言われるものもあったが臨機応変に対応できた。もう1つの目標は、歌う時の姿勢を大切にするというものだった。足は開き過ぎないようにして、体のリズム乗らせて歌うことができた。

今回は銀賞で、目標のGTOの部分は達成できなかったが、イワシの全力唱舞は達成できたと思う。1組の練習の成果を発揮できたと思う。来年こそは金賞がほしい。

練習をしていく中で、クラスのみならず関わる時間が増えたので、今まであまり話さなかった人とも話すようになって、交友が深まった。もうこのメンバーで歌う機会がないと思うと少しさびしい気もするが、次の高中祭も合唱コンクールのような中身のあるものにしたいです。

【次に向けて】2組 S.Y.さん

3回のうちの2回目の合唱コンクールが終わった。1年生の合唱を聞いていると、「もう2年生か」と感じた。しかし、2年生の合唱を聞いていると「来年に向けて少しでも覚えておこう」という気持ちも出てきた。

自分のクラスの自由曲は「友よ北の空へ」だった。この曲は途中でテンポが変わるので、最初は全然そろわなかったが、本番当日には、今まで練習してきた成果を出し切れたと個人的には思った。今年は、プライドカップもとった4組に届かずに終わってしまった。「悔しい」だけで終わらずに来年に向けて、一層合唱に力を入れていきたい。審査員の先生としておいでくださった吉川先生のお話「指揮者が腕を挙げることで歌う人たちの視線が上がる」というものがあった。僕は指揮者ではないけれども、そのことにも注意して来年の合唱に臨みたいと思うことができた。大場先生もおっしゃっていた通り「心残りがないように歌うように」というのは本当にその通りだと思った。一度歌って終わってしまえば、来年は別の新たな歌になるから、心残りがないように歌うというのが、一番大切なことなのではないかと思えた。そして、中学校生活で3回しかないから1つ1つの練習を大切にしていけないといけないうことも感じられた。

2年生と1年生の次の大きなイベントは新人戦となった。新人戦ではもう2年生が1年生を引っ張っていかなければならない。新人戦で良い結果を残すためにもチームワークが必要だと思う。部活動と勉強の両立はもっと難しくなっていくが、その壁を乗り越えてこそ良いチームになると思う。

今回の合唱コンクールを終えて、振り返ることも大切だが、これからある行事に向けても頑張っていかなければならない。これからの時間を大切に生活していきたい。

【初めて団結できた2年3組】3組 I.M.さん

今年の合唱コンクールも無事に終わり、3組は目標である金賞は取ることができませんでした。でも私は、金賞よりももっと大切なものをとることができたと思います。それは、仲間との団結と、努力することです。最初は、クラス全体団結していませんでした。一人一人全く音はとれず、誰も指揮者を見ようとしませんでした。正直私は、自分のクラスは、学年はもちろん、1年生よりも下手なクラスだと思っていました。そして、縦割り合唱で、1年3組と3年3組と発表会をしました。もちろん、私のクラスは今まで本気で練習してきませんでした。そのため、とても下手な合唱を先輩、後輩に見せることになりました。そして、3年生の後藤先生からは「がっかりしたよ。去年の青ジャージが君たちに聴かせた天馬はそのレベルだったんだ」と言われました。正直とても悔しく、明日からはもっとやろうと思いました。ですが、次の日からすぐに切り換えることができず、放課後の練習で学年主任の阿部博朗先生が「がっかりした」と後藤先生と同じこととお話しされました。そして、クラスは合唱への意識が大きく変わり、1週間後には音程がすべて合うようになっていきました。

そして、当日の朝、リハーサルをしたのですが、私自身、朝ということもあり、声あまり出ませんでした。でも、強弱をつけることに気を付けるようにして本番を迎えました。もう少し歌えたと思うところが多かったのですが、しっかり歌えたので良かったと思いました。自由曲も「ポニー」ではなく、「天馬」に成長したと思います。

金賞は取れなかったのですが、クラスの団結は深まり、協力したり、教え合うことも多くなりました。また、私はあまりクラスの友だちは少なかったのですが、協力したり仲良くなったりした友だちが増えたので、この合唱コンクールは、1年生の時の合唱コンクールよりも思い出となりました。このことを生かし、運動会は優勝したいと思います。

【できたもの】4組 T.R.さん

合唱コンクールを終えて、自分はたくさんのもので得ました。1つ目は、仲間たちと協力することの大切さです。ソプラノ・アルト・男声。それぞれの良さを今回のコンクールで出すことができました。それも、クラス全体で協力したからだだと思います。合唱はチーム全体の中の1人でも欠けると完成しないということが分かりました。その面で4組は、4組の合唱をすることができていたと思います。

今回の合唱コンクールで4組の中では、チームワークが生まれたと思います。これは今の4組にとっても大切なことだということが分かりました。

2つ目は、クラスみんなで作り上げた合唱で金賞をとったことの喜びです。4組のみんなが努力してとった金賞。これはとても価値のあるものだと思います。「4組は、プライドカップもとっていたので、金賞はとれない」たくさんの人がこう思ったと思います。でも、4組はその噂を覆そうとして1人としてあきらめる人が出ずに、最後まで努力を続けた結果の金賞だったと思います。

自分は、今回の合唱コンクールで金賞をとれたのは、クラスで協力したことと以外に、指揮者をしてくれたN.T.さんやI.M.さん、伴奏をしてくれたM.M.さんやE.K.さんのおかげでもあると思います。自分たちの練習がスムーズに進むために伴奏を頑張ってくれたMさんやKさん。この2人が頑張ってくれたおかげでスムーズに練習が進み、プライドカップもとることができました。指揮をしつつ、的確なアドバイスやダメなところを伝えてくれたMさんとTさん。この2人のおかげで4組の合唱が完成しました。合唱とは1人でも欠けると完成しないということを忘れずに、来年の合唱練習も頑張っていきたいと思います。